

# PAM通信 コラム

2009年12月発行

## <第33回>タイトル：プロフェッショナルな利用者

前回まで“コーディネーター”、“介助者”と焦点を当てて介助派遣を考えてみました。今回は“利用者”です。私もPAMの利用者の1人なので、客観的に“利用者”を見ることが出来るのか自信がないのですが、自戒の念を込めて考えてみたいと思います。

介助者にとって理想の利用者とはどんな人でしょうか？全てを把握し的確な指示を出すボスのような人でしょうか？それとも、上手く出来ない（または適当にこなした）介助を大目に見てくれる緩い人でしょうか？あるいは、介助者のペースで介助をさせてくれる受身の（または自己主張の少ない）人でしょうか？

介助者の理想型が1つではないことと同様に、利用者の理想型も1つではないと思います。そして、介助派遣の理念が“ハンディキャップを持つ人も自分の好む生活をする権利がある”ことを保障するものであることから、介助者以上に利用者の個性は尊重されるべきだと思います。

さらに、介助に係わる者の責任という視点で考えてみると、介助者には働く者の責任が発生しますが利用者にはありません。しかし、利用者は好むと好まざるに係わらず雇用者の立場になり（PAMのように利用者が介助者の勤務時間や給与を決める事業所に所属する人の場合は特にそうです）、雇用者の責任が発生することになります。この雇用者の責任を意識する（とても大変なことだと思うので、あえて果すとは言いませんが）ことは、よい利用者（プロフェッショナルな利用者）への重要な要因だと思います。

では、雇用者としての責任とはどんなことでしょうか？具体的には「収入の保証（簡単に解雇しないなど）」や「労働条件の管理（無茶な介助はさせない、休憩を作るなど）」等だと思います。「仕事の意義の説明（やりがいのある仕事であることの説明）」も重要な要因でしょう。さらに、介助者として働く者の気持ちを想像することも責務の1つだと思います。逆に言えば、雇用者の責任を意識しない利用者は、介助者のプロフェッショナルへの成長を阻害している人だとも言えます。しかしこれは、“プロフェッショナルを目指す介助者の成長”の阻害で、アルバイト感覚で責任なく働く介助者が成長しないこととは無関係だと思いますが…。

利用者と介助者は、ある意味で運命共同体だと思います。利用者の生活が安定しないと介助者は失業してしまうし、介助者の生活が安定しないと利用者は必要な介助を得られなくなってしまうからです。どちらか一方だけが良い生活を手に入れることはありえないのではないのでしょうか？

コーディネーター、介助者、利用者、と、焦点を当てて考えてきた介助派遣、あなたは自分の立場からどう考えましたか？（T）



ハートサルバジオン町田 194-0013 町田市原町田 2-7-19-106 Mail : [pam@w7.dion.ne.jp](mailto:pam@w7.dion.ne.jp) 緊急時 : 090-1406-9367

